

えなとだより

2020年
7月号
No.26



ブンさん

発行：恵那市中央図書館

シショコレ特集

7月7日は、恵那市中央図書館の開館記念日です。
2017年に開館10周年記念として発行した『シショコレ』から
抜粋して、司書のおすすめ本をご紹介します。



『偶然の装丁家』

矢萩多聞/著 晶文社 022.5/ヤ

小学生の時から学校に馴染めず、不登校だった著者は、昔旅行したインドで暮らすことを思いつきます。インドで暮らすうちに絵を描く楽しさを覚え、自身で描いた絵を売ったり、個展を開くよう

になります。そんな時、出会った人から今までの人生を本にしてみないかと持ちかけられ、さらに本の装丁もすることになり、ひよんなことから装丁の世界へのめりこんでいきます。



『聖書男(バイブルマン)』

A.J.ジェイコブズ/著 阪田由美子/訳
阪急コミュニケーションズ 193/シ

本のネタ探しに、宗教を全く信仰していない男が立ち上がります。聖書の本当の意味を発見するため、「うそをつかないようにする」「老人の前で起立する」といった教えを1年間忠実に実行したらどうなるか、何が得られるかをユーモア交じりにつづっています。著者の未知のものに対するチャレンジの仕方が独特でおもしろい一冊です。



『江戸の都市プランナー』

小林信也/著 柏書房 289.1/ク

百万人都市といわれた江戸は、水路が張り巡らされ、交通の便が整い、水道も完備された大都会だったことは有名です。本書の主人公は、江戸の町人熊井理左衛門という人物です。数々の文献に責任者として名を残す彼は、江戸のイン

フラに大きく貢献しました。水野忠邦や松平定信などの有名人も登場し、歴史好きにはもちろん、歴史は苦手という方にも楽しめる本です。



『ブルネイでバドミントンばかりしていたら、なぜか王様と知り合いになった。』

大河内博/著
集英社インターナショナル 302.2/オ

東アジアで最も裕福な国ブルネイに転勤した著者の奮闘記です。文化の違いから仕事思うようにいかない著者を救ってくれたのは、学生時代にやっていたバドミントンで

した。国が違っても共通の何かがあれば人はたちまち分かり合えるのだと感じました。もちろん、それにはあきらめない強い気持ちは必要です。



『プラントハンター』

西島清順/著 徳間書店 470.7/ニ

プラントハンターとは珍しい植物を求めて世界中をかけまわる人のことです。この本は植物の卸売店「花宇」の5代目である著者が植物を求めて世界中を旅したエピソードをまとめたものです。可愛らしい名前職業ですが危険が伴う職業であることが語られています。採取した植物の写真もたくさん掲載されているので写真を見るだけでも楽しめます。



『ねじとねじ回し』

ヴィトルト・リップチンスキ/著
春日井晶子/訳 早川書房 531/リ

時はさかのぼり 2000 年。この 1000 年間に発明された最高の道具は何か、というミレニアムにふさわしい記事を書いてほしいと依頼を受けた著者は、悩みに悩んだあげく『ねじ』にたどりつきました。ねじの歴史を紐解き、真実に段々と近づいていく過程はサスペンスの様です。ねじを発明したのは一体、誰なのでしょう。



『ダチョウの卵で、人類を救います』

塚本康浩/著 小学館 646.2/ツ

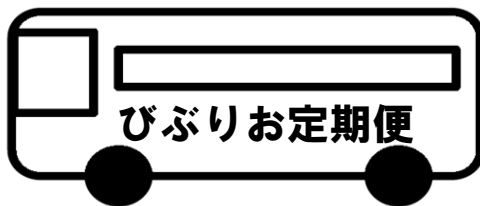
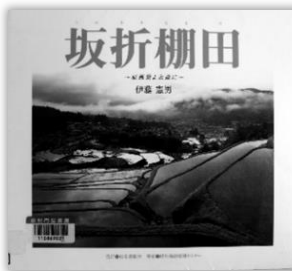
生命力の強いダチョウは、抗体を作り出す能力が高いうえ、ウサギ・マウスが作ることができない抗体も作り出すことができます。また大きな卵を年に 80~100 個も生むことから、抗体の大量生産にも向いています。新型インフルエンザ抗体・ノロウイルス抗体の開発など、ダチョウの卵で未来の医薬の可能性を追いかけてみませんか。



『坂折棚田』

伊藤憲男/著 岐阜新聞社 748/イ

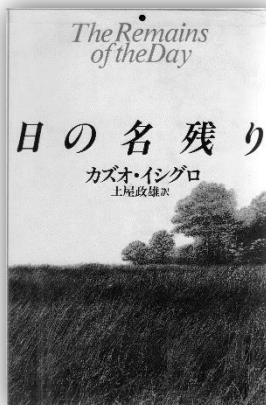
恵那市中野方町坂折の棚田は日本の棚田百選に選ばれています。田植えの頃、よく晴れた日には水田に青空が映りこみ、とても美しい景色です。この写真集にはそんな棚田の美しい場面が四季を通して撮影されています。写真を眺めていると、棚田の美しさに魅了された著者の気持ちがわかるかもしれません。



市内の高校 4 校の先生、生徒のおすすめ本を月替わりで紹介します。今月は「恵那南高等学校」です。

『日の名残り』

カズオ・イシグロ/著 出版社：早川書房 分類：933.7/イ



内容紹介

2017 年にノーベル文学賞を受賞した日系イギリス人作家、カズオ・イシグロの代表作。執事として誇りをもって長年生きてきた主人公が主から休暇をもらい、短い旅に出る。そして旅をしながらかつての日々を思い出す。美しく、せつない小説である。主人公の語りの中で理想的に見たかつての日々の真の姿が徐々に浮き上がってくる緻密な構成はさすがノーベル賞作家、と感じさせる傑作。